

- 問1 室町時代には経済が活性化し、特定の役割を持つ業者が活躍しました。馬を利用して荷物を運ぶ運送業者と、質物を担保にお金を貸し付け、幕府の財源にもなった金融業者の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2019年 沖縄県公立入試 類似)
1. 馬借と土倉 2. 問（問丸）と札差 3. 馬借と蔵元 4. 問（問丸）と株仲間
- 問2 15世紀、琉球王国（現在の沖縄県）は東アジアと東南アジアを結ぶ海上の要所に位置していました。当時、琉球が中国や日本、東南アジア諸国から輸入した物品を、さらに別の国へ転売することで多大な利益を得ていた貿易の形態を何と呼びますか。 (2024年 山梨県公立入試 類似)
1. 南蛮貿易 2. 三角貿易 3. 朱印船貿易 4. 中継貿易
- 問3 応仁の乱の背景や影響を説明した図において、戦乱の「原因」として示される内容と、戦乱の「結果」として広まった社会現象の名称を答えるものとして、正しい記述はどれですか。 (2021年 新潟県公立入試 類似)
1. 原因は徳川家康による天下統一の野望であり、結果として参勤交代の制度が始まった。 2. 原因は将軍のあとつぎ問題と細川・山名の対立であり、結果として下剋上の風潮が広まった。 3. 原因は守護大名による幕府への忠誠心の向上であり、結果として平和な時代が長く続いた。 4. 原因は石田三成による反乱であり、結果として農村での一揆がすべて鎮圧された。
- 問4 室町幕府の組織において、侍所・政所・問注所の三つの機関を傘下に置き、将軍の直下で幕政を統括し、将軍を補佐した最高職を何というか。 (2018年 香川県公立入試 類似)
1. 執権 2. 内大臣 3. 老中 4. 管領
- 問5 南北朝時代において、守護が「守護大名」へと成長し、一国を領国として支配するに至った背景として、当時の社会状況を説明したものとして適切なものはどれですか。 (2021年 岡山県公立入試 類似)
1. 幕府が半済令を出し、守護が荘園や公領の年貢の半分を軍費として徴収することを認めたため。 2. 地頭が土地の管理権を強め、幕府の許可なく独自に検地を行うことが一般化したため。 3. 有力な農民が武装して国人となり、幕府の権威を借りずに自ら一国を統治し始めたため。 4. 鎌倉幕府の滅亡後、すべての武士が天皇から直接領地を安堵される仕組みに変わったため。
- 問6 日本の歴史における代表的な寺院とその建立に関わった人物や時代について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2023年 東京都公立入試 類似)
1. 平安時代に、聖武天皇が東北地方の支配の拠点として中尊寺金色堂を建立した。 2. 飛鳥時代に、足利義満が公家文化と武家文化を融合させた金閣を建立した。 3. 室町時代に、聖徳太子が大陸の文化を取り入れた法隆寺を建立した。 4. 奈良時代に、聖武天皇が仏教の力で国を守るために東大寺を建立した。
- 問7 室町時代、足利義満が中国の明と行った公式な貿易において、正式な貿易船であることを証明するために「勘合」と呼ばれる札が使われました。この札を使用した主な目的として最も適切なものはどれですか。 (2015年 岐阜県公立入試 類似)
1. 朝鮮半島からの輸入品に税を課す基準とするため 2. 倭寇（海賊）による密貿易と区別するため 3. キリスト教の布教を制限し、貿易を管理するため 4. 幕府の許可を得た朱印船であることを示すため
- 問8 室町時代、足利義満が明の皇帝から日本国王に封じられ、朝貢の形式をとって開始した日明貿易（勘合貿易）の仕組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。 (2020年 三重県公立入試 類似)
1. 長崎の出島において、オランダ船が来航した際に商館長がオランダ風説書を提出した。 2. キリスト教の布教を目的とした宣教師の来航を制限するため、朱印状を発行した。 3. 海賊である倭寇と正式な貿易船を区別するために、勘合と呼ばれる割符を照合させた。 4. 朝鮮との交易において、偽造を防ぐために「図書」と呼ばれる銅印を対馬の宗氏に管理させた。
- 問9 室町時代から戦国時代にかけて、和泉国（現在の大阪府）に位置し、日明貿易（勘合貿易）の拠点として栄えた港町について説明します。この都市は、強力な経済力を背景に、周囲に堀を巡らせるなどして武士の支配を退け、豪商たちが自ら運営を行いました。このような特徴を持つ都市を次の中から選びなさい。 (2021年 京都府公立入試 類似)
1. 堺 2. 神戸 3. 横浜 4. 下関
- 問10 鎌倉時代から室町時代にかけて、大きな寺社の門前や交通の要所において、月に3回や6回といった特定の日に開かれるようになった市場を何と呼びますか。 (2019年 秋田県公立入試 類似)
1. 問丸 2. 宿駅 3. 定期市 4. 座
- 問11 室町幕府の政治体制における「管領」の説明として、その仕組みや特徴を正しく述べたものはどれか。 (2018年 香川県公立入試 類似)
1. 徳川氏に忠誠を誓う譜代大名の中から選ばれ、複数の人数による合議制で重要事項を決定した。 2. 北条氏が独占的に世襲し、将軍の幼少期だけでなく成人後も政治の全権を握り続けた。 3. 足利氏の一族である有力な守護大名が交代で務め、将軍に次ぐ立場で実務機関を指揮した。 4. 天皇を助けるために設置され、全国の武士を統制することで律令制度の復活を目指した。
- 問12 1467年に京都付近で発生した応仁の乱によって、幕府の権威が揺らぎ社会が大きく動揺した時期に、足利義政が東山山荘を造営するなどして栄えた文化があります。この文化の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 長崎県公立入試 類似)
1. 雪舟が墨の濃淡で自然を描く水墨画を大成させ、簡素で気品のある気風が好まれた。 2. 近松門左衛門が脚本を書き、庶民の間で人形浄瑠璃や歌舞伎が人気を博した。 3. 紀貫之が編纂に関わった『古今和歌集』に代表されるような、優雅な国風文化が広がった。 4. 鑑真が唐の進んだ文化を伝え、国際色豊かな仏教文化が花開いた。
- 問13 15世紀ごろ、沖縄本島の首里を中心とした琉球王国は、東アジアと東南アジアを結ぶ地理的条件を活かして、各地の特産品を仕入れては他国へ転売することで大きな利益を上げました。このような貿易の形態を何といいますか。 (2021年 新潟県公立入試 類似)
1. 中継貿易 2. 朱印船貿易 3. 勘合貿易 4. 南蛮貿易
- 問14 鎌倉時代から室町時代にかけての西日本における農業の変化について、中国との交流の影響を含めて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2023年 長野県公立入試 類似)
1. 中国へ輸出するための火薬の原料となる作物の栽培が、用水路の発達した西日本の平野部で急速に拡大した。 2. シルクロードを通じてもたらされた小麦の栽培が奨励され、米を一切作らない裏作専門の農村が各地に形成された。 3. アイヌとの交易で得た強力な肥料を用いたことで、西日本一帯でそれまでの二毛作に代わる三毛作が開始された。 4. 中国から伝わった収穫量の多い大唐米が広まり、二毛作の普及や、水資源を管理するための地域的な組織作りが進んだ。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 馬借と土倉	中世の流通を支えたのは、馬で物資を運んだ馬借や、港湾で物資の保管・輸送を行った問（問丸）です。また、金融業者としては土倉や酒屋が台頭し、彼らは幕府に税を納める代わりに営業の保護を受けました。札差や蔵元、株仲間は江戸時代の経済を特徴づける用語であるため、中世の文脈では誤りとなります。
問2	答え 4 中継貿易	琉球王国は、自国に大規模な産業や産品が少なかったため、地理的利点を活かして物流の拠点となりました。中国の磁器やシルクを日本へ、日本の銀や刀剣を中国へ、東南アジアの香辛料を東アジアへといったように、他国の品物を仲介して売買する「中継貿易」によって繁栄しました。
問3	答え 2 原因は将軍のあとつぎ問題と細川・山名の対立であり、結果として下剋上の風潮が広まった。	応仁の乱は、将軍家や守護大名内部の家督争いが複雑に絡み合って発生した内乱です。細川氏（東軍）と山名氏（西軍）に分かれて戦われたこの乱は、京都の町を焼き尽くし、幕府が全国を支配する力を完全に失わせる結果となりました。これによって、古い秩序に縛られず実力で地位を勝ち取る「下剋上」という新しい時代の動きが加速することになりました。
問4	答え 4 管領	室町幕府では、足利氏の一門から選ばれた有力な守護大名がこの職に就き、将軍を補佐しました。鎌倉幕府において北条氏が世襲した「執権」や、江戸幕府において複数の譜代大名が交代で務めた「老中」と比較される、幕府運営の要となる役職です。
問5	答え 1 幕府が半済令を出し、守護が荘園や公領の年貢の半分の半を軍費として徴収することを認めたため。	南北朝の動乱が長引く中で、室町幕府は軍費を確保するために「半済令」を制定しました。これは守護に一国の年貢の半分の徴収する強大な権限を与えるものであり、守護が経済的基盤を固めて領国支配を強める決定的な要因となりました。
問6	答え 4 奈良時代に、聖武天皇が仏教の力で国を守るために東大寺を建立した。	奈良時代の聖武天皇は、仏教の力で国家の安定を図る「鎮護国家」の思想に基づき、全国に国分寺・国分尼寺を建立しました。その中心となる総国分寺として、奈良の都に東大寺と大仏を造立しました。飛鳥時代の聖徳太子による法隆寺、平安時代の奥州藤原氏による中尊寺金色堂、室町時代の足利義満による金閣（鹿苑寺）など、それぞれの建築物は建立された時代の政治的・文化的背景を象徴しています。
問7	答え 2 倭寇（海賊）による密貿易と区別するため	足利義満は明の皇帝から「日本国王」としての地位を認められ、公式な貿易を開始しました。当時、中国沿岸などで略奪を行っていた倭寇と、幕府が公認した正式な貿易船を明確に見分ける必要があったため、勘合という割符を合わせる仕組みが導入されました。このため、この貿易は勘合貿易（日明貿易）と呼ばれます。
問8	答え 3 海賊である倭寇と正式な貿易船を区別するために、勘合と呼ばれる割符を照合させた。	足利義満は明との正式な国交を結ぶ際、明の皇帝に従う形式をとることで貿易を独占しようとししました。当時、東シナ海で活動していた海賊「倭寇」を排除したい明側の要求に応えるため、二枚の紙を合わせて本物であることを証明する「勘合（勘合符）」を使用しました。これにより、正式な使節と密貿易者や海賊を明確に区別する仕組みが整えられました。
問9	答え 1 堺	堺は、現在の大阪府に位置する中世日本の代表的な港町です。日明貿易による莫大な富を背景に、「会合衆（えごうしゅう）」と呼ばれる36人の豪商たちが合議制で市政を運営する自治都市となりました。その独立性の高さから、当時の宣教師によって「日本のベニス（イタリアの自治都市）」とも評されました。
問10	答え 3 定期市	農業生産力の向上や貨幣経済の広まりにより、人々が集まりやすい寺社の門前などで決まった日に商いが行われるようになりました。月に3回開かれるものは三斎市、室町時代に普及した月に6回開かれるものは六斎市と呼ばれます。これらは特定の日にち（定期）に開催されることから、総称してこの名称と呼ばれます。
問11	答え 3 足利氏の一門である有力な守護大名が交代で務め、将軍に次ぐ立場で実務機関を指揮した。	管領は、足利氏の有力な分家である細川・斯波・畠山の三家（三管領）が交代で務めることが慣例でした。室町幕府は有力な守護大名の連合政権という性格が強かったため、彼らの中から選ばれた管領が、侍所などの実務機関を統括しながら幕政の安定を図りました。これに対し、執権は鎌倉幕府、老中は江戸幕府の役職であり、それぞれの幕府によって権力の構成や選ばれる家柄が異なります。
問12	答え 1 雪舟が墨の濃淡で自然を描く水墨画を大成させ、簡素で気品のある気風が好まれた。	応仁の乱前後の室町時代後期に栄えた文化は東山文化と呼ばれます。禅宗の精神性を反映し、水墨画や書院造、茶の湯など、現在まで続く日本的な美意識の基礎が築かれました。雪舟による水墨画の大成は、この時代の簡素で奥深い精神性を象徴するものです。
問13	答え 1 中継貿易	琉球王国は、自国の産品である硫黄だけでなく、日本、中国（明）、朝鮮、さらには東南アジア諸国を繋ぐネットワークを築きました。産地から仕入れた品物を別の国へ運んで売るという「仲役」を担ったことから、この名称と呼ばれます。1429年に尚巴志が三山を統一して以降、首里城を拠点に国際色豊かな文化が発展しました。
問14	答え 4 中国から伝わった収穫量の多い大唐米が広まり、二毛作の普及や、水資源を管理するための地域的な組織作りが進んだ。	中世の日本では、中国から導入された「大唐米（だいてうまい）」と呼ばれる品種が西日本を中心に普及しました。大唐米は病害虫や乾燥に強く、収穫量も多かったため、農業生産力の向上に寄与しました。また、同じ耕地で一年に二種類の作物を育てる二毛作が広まるとともに、用水路を適切に管理・運営するための農民同士のつながりも強まりました。